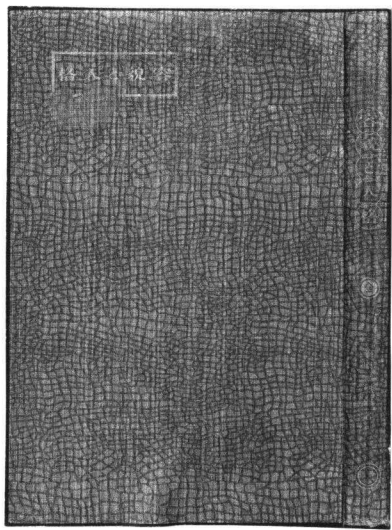


篠原無然 しのはら むねん 社會教育家。明治二十一年二月兵庫縣二万郡西濱村
とよたせ 諸寄生れ、大正十二年十一月十四日歿（二八九一—一九二四）。本名藤次。筆
 名やはらぎのそののがあるじ、嘉美高朗、炊登庵六快洋々無然、無然郎
 自然子、靈泉無然、靈泉隱士。諸寄の小學校時代、教師、まじ 歌人前田純
たか 孝（翠溪）が居り、課外、漢籍を學ぶ。縣立神戸商業學校卒業後、小
 代村の小學校で代用教員となり、在職二年の間小學校教育と社會教育
 の一體化を圖つて、婦人會、青年團、處女會を組織し、指導のため
 小冊子や道歌を作り、郷土建設の精神運動を起して村の青少年に感化
 を與へた。その後上京して早稻田大學哲學科に入り、こ 青年團の組織
と 事業（明治四十二年刊）を自費出版、のちこ 地方青年團の組織及
 事業（明治四十五年刊）と補訂改題して實業之日本社から刊行、類
 書無く、この方面の先驅的著作となり、版を重ねた。また後藤新平、
とよたせ 末次竹二郎の知遇を得、蓮沼門二の修養團に入りて機關誌こ 向上の
 編輯主任となつた。

爾後^も「容貌と人格」（篠原無然郎名、大正二年一月一日東亞堂書房）、
 「青年の光輝」（大正五年刊）、こ 山嶽生活（大正七年刊）等々著
 はず。一方修養團の在り方に疑問を生じて退き、岐阜縣吉城郡上寶村
 の小學校に奉職、更に平湯分教場に
 轉任し、教職の傍ら青年會、婦人會
 等の指導培養に努め、こ 工女組合や購



買組合の設立を促
 し、上寶村は模範
 村として農林大臣



表彰を受けた。その後、社会教育の實踐に全力を傾注してゐたが、白
骨温泉から平湯への歸途、雪中で凍死した。

没後二十二年、平湯篠原會により『飛驒と無然』(昭和二十一年刊)
が出版せられ、また飛驒出身の作家江夏美好の一千枚の書下し評傳が
『雪の碑』(昭和五十五年十一月二十五日河出書房新社)にある。